

R4年度 京都酪農「牛づくり」事業費

予算要求額 6,505千円（うち一財 0千円）

④ 6,505千円（うち一財 0千円）

1. 趣 旨

北海道から導入する乳牛初妊牛価格が高騰する中、府（碓高原牧場）と生産者団体（JA全農京都）のリレー方式による乳用後継牛の預託育成を行うとともに、府内の育成技術のレベルアップを図り、北海道導入や北海道預託に頼らない府内での育成体制を構築し、府内酪農家の経営体質を強化する。

2. 事業概要

(1) 乳用育成牛の預託

⑤ 6,005千円（諸収入6,005千円）

④ 6,005千円（諸収入6,005千円）

- 府（碓高原牧場）と生産者団体（JA全農京都）のリレー方式による乳用後継牛の府内育成体制を構築することにより、年間100頭の乳用後継牛を府内で新たに確保する。

育成区分	前期育成	放牧育成・種付	後期育成	合 計
場 所	JA全農京都 哺育センター	府碓高原 牧 場	JA全農京都 哺育センター	府 内 酪農家
期 間	7か月間	7か月間	4か月間	18か月間

- 碓高原牧場の草地基盤と繁殖のノウハウを最大限活用するため、酪農家が全農京都に預託した乳用育成牛を碓高原牧場で預かり受胎させ、妊娠牛として全農京都で後期育成した後、酪農家へ返却

- ・ 預託期間：12か月間（12か月齢～18か月齢まで）
- ・ 預託頭数：最大43頭
- ・ 預託料：1日1頭当たり637円

* ③実績：9頭

②実績：16頭

■ 予算要求額積算

○ 収 入

預託料 637円/日/頭×延10,353頭≒6,594千円（諸収入）

○ 支 出

6,005千円（①+②+③+④）

- ①飼料費 3,486千円（@336.7円*10,353頭）
- ②種付料 1,897千円（@183.2円*10,353頭）
- ③衛生・敷料費 260千円（@25.1円*10,353頭）
- ④光熱費 362千円（@35.0円*10,353頭）
- ⑤人件費 433千円（@42.0円*10,353頭）
- ⑥減価償却費 98千円（@9.5円*10,353頭）
- ⑦修繕費 59千円（@5.7円*10,353頭）

(2) 優良乳用後継牛育成技術向上 500千円（うち諸収入500千円⑤+⑥+⑦）

500千円 【②500千円】

=(@300千円/1回（講師料、資料・資材費等）×3回+事務費100千円)/2

府内酪農家が行う自家育成では、預託した育成牛に比べると乳量が少ない傾向があるため、府内に預託できずに自家保留となった育成牛の哺育・育成技術向上のための研修会等を開催し、府内の乳用牛育成技術のボトムアップを図る。

- 事業主体：京都酪農クラスター協議会

- 事業費：1,000千円（補助率：1/2）